

兵庫県における タケムラスジコガネの分布

(兵庫県甲虫相資料・166)

高橋寿郎

筆者は1983年“兵庫県のスジコガネ”をまとめた際(IRATSUME, No.7:30-51), タケムラスジコガネ *Mimela takemurai* Sawada, 1942 の県下での産は, 文献による記録のみを収録しておいて, 県下での分布を再調査する必要があるとしておいた。その後, 筆者所有のヒメスジコガネ *M. flavilabris* (Waterhouse, 1875) のうち小型の一群の同定に疑問が生じ, 再検討してみたところ, これらはタケムラスジコガネと同定すべきものであるとの結論に達した。すなわち, 1. 中腿節には灰白色の軟毛を密にそなえる。2. 上翅側縁隆起は第2腹節後縁付近で消失する。3. 前跗節の外側の爪には切れこみがある。4. ♂交尾器の形状(図1), などによりタケムラスジコガネに間違いないと考えられる。いずれも前胸背がしわ状になっておらず, この点ではヒメスジコガネと同じようにつるりとしている(ヒメスジコガネの前胸背もしわ状になるものがあるとのことであるが, 筆者の所有の残りの個体ではそのようなものが見つからなかった)。和田義人博士が高知県土佐郡長沢山で採集されたタケムラスジコガネ1♀(28-VII-1948)が手元にあるが, この標本は前胸背が強くしわ状で, この点でどうも誤った考え方をもっていたようである。

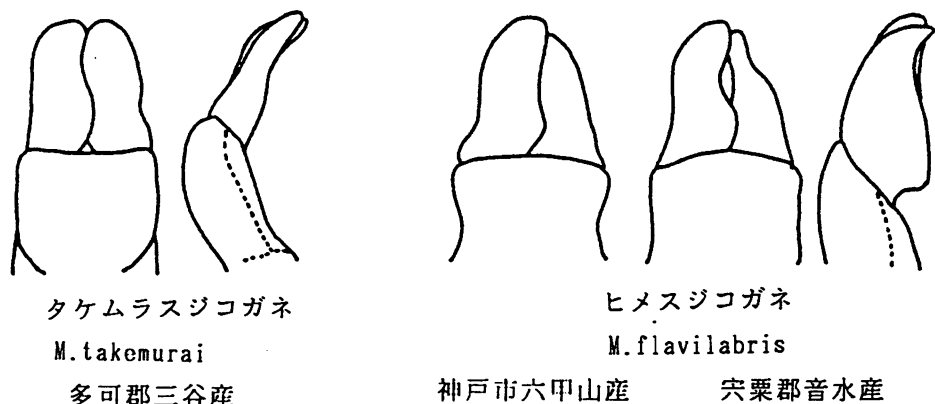


図1 ♂交尾器

今回、タケムラスジコガネと同定できたものは以下のとおりである（すべて筆者採集，標本も所有）。

多可郡三谷（千ヶ峰山麓）4♂，2♀，13- VII-1975， 7♂，5♀，2- VIII-1975.， 神崎郡大河内町川上～砥ノ峯 1♂，3♀，15- VII-1977， 1♂，1♀，23- VII-1977.， 宍粟郡波賀町水谷 1♂，17- VII-1981 。

このほかに，従来から知られていた記録地が城崎郡三川山，養父郡鉢伏山，美方郡扇ノ山で，これらを図に示すと（図2），県の中央部から北の方にはタケムラスジコガネが分布しているようである（本種は九州，四国には多いようで，どちらかといえば北の方に少ない種のようなが・・・関東地方では稀であるとのこと．現在分布の北限は茨城県牛久沼ではないかと考えられる．市川敏之，月刊むし，No. 13，p.14，1972）．神崎郡大河内町川上～砥ノ峯，宍粟郡波賀町水谷，城崎郡三川山，養父郡鉢伏山，美方郡扇ノ山のそれぞれの地点では，ヒメスジコガネと両種を産する．従って県下ではまだ他にもタケムラスジコガネの分布地点があると考えられる（県の南部でも分布しているのではないかと考えている）．一見してタケムラスジコガネの方が小さいようである．（今回検したものは体長11.5-14mm であった）．

本種の生活史については，
残念ながら見られなかった．

図 2

兵庫県におけるタケムラスジコガネ，
ヒメスジコガネの記録地点

- ヒメスジコガネ
- タケムラスジコガネ

